

株式メモおよびその他のIR情報

株主メモ

| | | | |
|-----------|--|---------|---|
| 事業年度 | 4月1日から翌年3月31日まで | 株主名簿管理人 | 大阪市中央区北浜4丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 |
| 株主確定基準日 | 定時株主総会・期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 期末配当のみとさせていただきます。 | 同事務取扱場所 | 東京都中央区八重洲2丁目3番1号 住友信託銀行株式会社 証券代行部 郵便物送付先 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話照会先 ・住所変更等用紙のご請求 0120-175-417 ・其他のご照会 0120-176-417 |
| 定時株主総会 | 毎年6月開催 | 同取次所 | 住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店 |
| 単元株式数 | 100株 | 公告方法 | 電子公告とします。ただし、事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して公告します。 |
| 証券コード | 6258 | | |
| 上場金融商品取引所 | ジャスダック証券取引所 | | |

【株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について】

平成21年1月5日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といたします。)を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取請求のお取扱いについて】

特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日(平成21年1月5日)から平成21年1月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年1月26日以降となります。単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取扱と異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。

その他のIR情報



会社情報・IR情報などは当社のホームページからご覧いただけます。

平田機工株式会社ホームページ
<http://www.hirata.co.jp>



IR情報に関するお問い合わせ先
平田機工株式会社 経営企画部 IR・広報室

TEL 096-272-5558
FAX 096-272-3618
E-mail hirata_ir@hirata.co.jp

平田機工株式会社

本社
〒142-0041 東京都品川区戸越3丁目9-20
TEL.03-3786-1226 FAX.03-3786-1264

熊本本部
〒861-0198 熊本県鹿本郡植木町一木111
TEL.096-272-0555 FAX.096-272-7901



第58期第2四半期
**HIRATA
REPORT**
平成20年4月1日～平成20年9月30日



平田機工株式会社



代表取締役社長 米田 康三

代表取締役会長 平田 耕也

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと御慶び申し上げます。第58期第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)の事業概況を以下のとおり、ご報告させていただきます。

当期間は、米国発の金融不安、急激な円高、原材料価格の高騰などにより、景気の減速感が強まりました。

また、自動車市場の減速、半導体市況の低迷などを背景に企業の設備投資も鈍化しており、当社グループの事業環境は、より厳しさを増しております。

このような情勢のもと、当期間の連結売上高は、203億54百万円(前年同期比2.2%減)となり、前年同期とほぼ同水準を維持しました。自動車分野では、昨年受注した北米自動車メーカー向けの大口案件の一部が売上に寄与し、自動車部品関連設備も堅調となりました。FPD分野では、大型パネルの需要増加に伴う設備投資が国内外で好調であり、受注残は大きく積み増しておりますが、売上は第3四半期以降に計上される見込みのため、前年同期と比較し

て減収となりました。

半導体分野においては、半導体市況は低迷しておりますが、大口案件の売上により、前年同期と比較して増収となりました。物流機器および家電関連分野においては、タイヤ関連設備などが堅調に推移し、前年同期と比較して増収となりました。受注高・受注残高につきましても前年を上回り、受注残高は、374億円と高水準を維持しております。

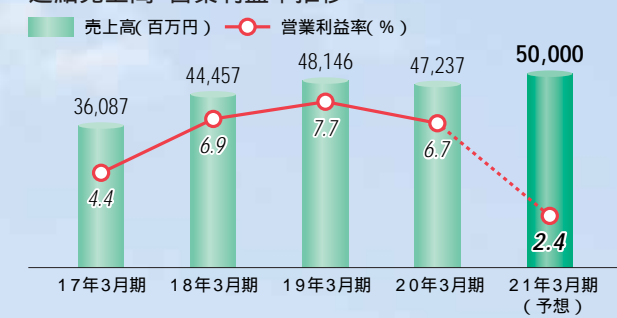
しかしながら、当第2四半期は、期初に発表した計画(平成20年5月15日発表)を達成することができず、売上高は、第2四半期に計上を予定しておりました一部の大口案件の売上計上が、第3四半期以降にずれ込んだため、期初に発表した計画(売上高225億円)と比較して、9.5%のマイナスとなりました。

利益面においても、売上高の減少、原材料価格の高騰などにより、期初の計画および前年同期と比較して営業利益が減少、営業外費用のうち為替差損が増加し、経常利益、四半期純利益も減少する結果となりました。

平成21年3月期 第2四半期累計実績と通期業績予想(連結)

| | 第2四半期累計実績 | 修正後通期業績予想 |
|-----------------|-----------|-----------|
| 売上高 | 203億円 | 500億円 |
| 営業利益 | 4.7億円 | 11億円 |
| 経常利益 | 1.9億円 | 7.0億円 |
| 四半期(当期)純利益 | 1.2百万円 | 3.5億円 |
| 1株あたり四半期(当期)純利益 | 1.17円 | 32.89円 |
| 1株あたり配当金 | 0.00円 | 25.00円 |

連結売上高・営業利益率推移



今後の取り組み

当社は平成20年9月29日に当第2四半期累計期間および通期業績予想の修正を発表しました。特に、通期業績予想の修正につきましては、売上高は期初に発表した計画を維持しましたが、利益面では大幅な下方修正をいたしました。その主な理由は以下のとおりです。

- 鋼材をはじめとした原材料価格が予想以上に高騰したこと
- 新規性の高い受注案件の試作費用が計画以上に嵩んだこと
- 生産高増加に伴う外部要員の急増により、外注費が増加したこと

当面の対応として、個別案件の採算性を確保すること、あらゆる工程における生産性を向上することの他、徹底して製品の品質を向上することが重要であると考えています。品質の悪化は、補修工事など納品後の作業を発生させ、コ

ストップの要因になるだけでなく、顧客満足度を著しく低下させ、将来の業績や競争力の低下につながるためです。

また、原材料の高騰について、鋼材価格は、前年の約7割高くなっており、これに対応するため、国内工場で別々に購入していた部品を一括購入するなど、コスト削減を実行しております。

さらに、今後の為替動向にも注視する必要があります。為替動向については、先行き不透明感がありますが、受注時点において、海外取引先と円建ての取引を進めることなど、為替リスクのヘッジに努めております。

このように、個別案件の採算性の確保、生産性の向上、品質の向上、調達機能の強化など社内体制を整備し、収益力の改善に努めてまいります。今後も米国発の金融不安による世界経済の減速、北米自動車市場や半導体市況の低迷など外部環境は引き続き厳しい状況ではありますが、グループの総力を結集して安定した収益を確保できる力を備えていきたいと考えております。

お客様の夢をかたちにする 生産エンジニアリングメーカー Hirata

Hirataは、生産に関してハード、ソフトの両面からトータルソリューションを提供する生産エンジニアリングメーカーです。自動車・FPD・半導体分野を主力として、ロボット・コンベヤなどの搬送機器、自動機とそれらを制御・運用するソフトウェアを組み合わせた「生産システム」を世界のトップメーカーに提供しています。



当社で試運転している生産システムの様子

提案・設計・製作・据付・サポートまで一貫生産体制を確立。



生産エンジニアリング

高レベルのソリューションを提供
お客様が抱える問題・課題に対して、品質、コスト、安全性、生産効率などトータルな視野で最適な生産システムを提案。

サポート力

保守・サービス
国内7拠点、海外13拠点を有し、子会社とのネットワークにより、お客様をサポート。

モノ造り力

組立・検証・生産立ち上げ
広大な組立・試運転スペースを所有。

部品製造・ソフトウェア開発
設備を構成する部品の大部分を自社にて製造。また、ソフトウェア開発を自社グループ内で対応し、高品質・低コスト・短納期を実現。



世界に通用する「モノ造り」へ

当社が誇るもののひとつは「モノ造り力」です。世界に通用する「モノ造り」を目指し、今期は、特に、海外拠点との連携による事業活動を強化しています。

アジア地域では、連結子会社 平田机工自動化設備(上海)有限公司の新工場が今年7月に本格稼働しました。当工場は、当社グループにおいては、海外初となる部品製作・加工から組立までの一貫生産体制を整えた工場であり、当工場の稼働により、日本品質と同等で、且つコストメリットを実現した製品の供給が可能となりました。既に中国では、自動車・FPD関連の設備を中心に順調に受注を確保しています。当工場では、機械の操作に欠かせない制御盤などの電子機器の組立も行っており、中国国内のみならず、欧米など世界のグループ各社への製品輸出も行っています。

このように、当社は、海外子会社との連携をさらに深め、

世界中のどこでも同じ品質の製品を提供できる体制を確立することにより、世界における競争力をより一層強化していきたいと考えています。

品質を向上し、短納期で大規模な生産システムのエンジニアリングから製造までを請け負うことが出来るのは当社の大きな競争力のひとつであり、当社と同じことができる企業は少なくなっています。

当社は、グローバル企業として、世界に通用する「モノ造り」を目指し、経営環境の変化に強い企業へと進化してまいります。

今後とも投資判断に必要な情報を適時適切に開示するとともに、投資家の皆様のご意見を真摯に受け止め、長期的な企業価値の向上を目指してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、一層のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

中国上海の 新工場本格稼働

(2008年7月)

連結子会社 平田机工自動化設備(上海)有限公司の新工場が完成し、本格稼働を開始しました。中国における中核拠点として、自動車、FPD分野における受注の増加および既に中国に進出している取引先企業のニーズに柔軟に対応します。部品加工から組立までの一貫生産体制を整えた海外では初めての工場であり、高

品質で低コストの製品造りを実現し、中国市場での受注獲得、世界中のグループ各社との連携によるグローバル展開を目指します。



平田机工自動化設備(上海)有限公司の新工場

東欧地域に 初の営業拠点を開設

(2008年9月)

当社は、連結子会社 Hirata Corporation of Europe Limited(イギリス ウィルトシャー)の支店をチェコ共和国の首都プラハに開設しました。欧州においては、東欧地域の経済成長に伴い顧客の投資活動が同地域にシフトしています。営業拠点を開設することにより、主に家電、自動車関連生産設備のさらなる販売強化、既存顧

客へのサポート体制強化の他、同地域およびロシアにおける市場調査ならびに顧客開拓を推進し、当社グループの成長性の継続的な向上を目指します。



連結子会社 Hirata Corporation of Europe Limited のプラハ支店 (入居ビルの外観)



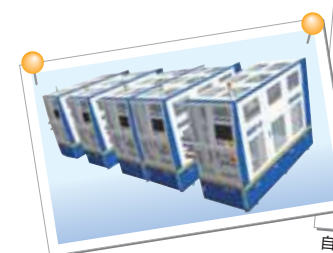
自動車部品関連生産設備

ACS-Cを開発 (2008年9月)

当社は、エンジン組立設備分野で国内外の顧客より高い評価を得ているACSコンセプトを自動車部品組立分野に応用したACS-Cを開発しました。ACSコンセプトに基づいて共通化したステーションに当社最新鋭の組立用多軸ロボットを搭載し、高速かつ高精度の部品組立が可能となりました。また、装置をコンパクトにし、省スペース化を実現、操作性にも配慮しています。

現在、自動車部品組立分野における積極的な販売活動を展開しています。

Assembly Cell System Hirataの生産エンジニアリングの考え方。各工程で使用する装置や機械の動作、ユニット、部品の機能を分析し、共通化した「共通モジュール」による組立ラインシステムを指す。



自動車部品関連生産設備 ACS-C

「日経IRフェア2008」に出展

当社は、2008年8月22日(金)、23日(土)東京ビッグサイトにて開催された日本経済新聞社主催の「日経IRフェア2008」に出展しました。IRフェアは、個人投資家を対象としたイベントで、当社ブースおよび会社説明会会場にも多くの方々にご来場していただきました。当社ブースでは、パネル・映像などを活用して、当社の事業内容、製品、業績などをご説明させていただきました。今後も、引き続き個人投資家

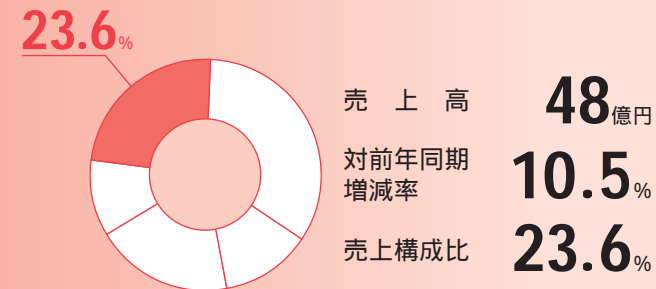
の皆さまとのコミュニケーションの機会を創出し、IR活動に取り組んでいきます。



当社ブースの様子

自動車関連生産設備事業

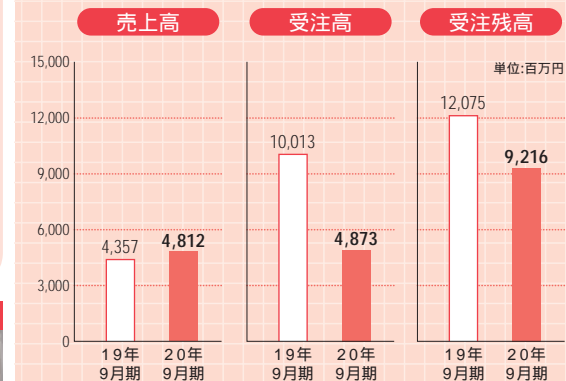
エンジン、トランスミッションなどの自動車の駆動系主要部品をはじめ、制御用電子機器、車載用電子部品などの組立設備の製造・販売



トランスミッション組立設備



エンジン組立設備



| 項目 | 平成19年9月期 | 平成20年9月期 | 対前年同期増減率 |
|------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 4,357 | 4,812 | 10.5% |
| 受注高 | 10,013 | 4,873 | 51.3% |
| 受注残高 | 12,075 | 9,216 | 23.7% |

第58期 第2四半期累計実績

国内自動車メーカー向けの売上高は底堅く推移しました。一方、北米自動車メーカー向けの売上高は、昨年受注した大口案件の一部が売上に寄与し、当第2四半期累計期間の売上高は、48億12百万円(前年同期比10.5%増)となりました。世界的な景気の減速に伴い、自動車販売台数は減少していますが、自動車メーカー各社は、環境対応車種の開発に注力しており、

この分野では、受注の拡大が期待できる環境にあります。当社は、今年9月に自動車部品関連設備ACS-Cを開発しました。今後は、パワートレイン分野(エンジン・トランスミッションなど駆動部の総称)とともに、ハイブリッド車やディーゼルエンジンなどの基幹部品を生産する設備分野を中心に、自動車部品市場への展開を強化します。

FPD関連生産設備事業

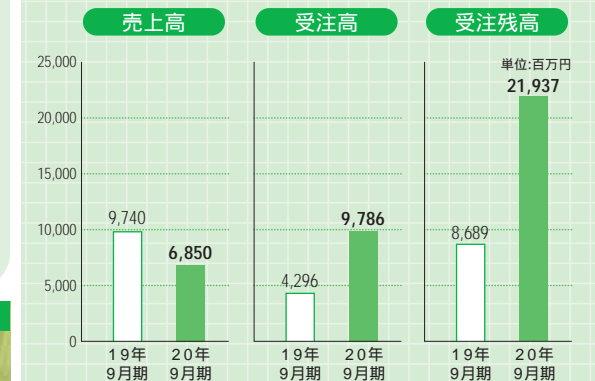
液晶・PDP(プラズマディスプレイパネル)の基となるガラス基板を搬送するシステム、ガラス基板に感光剤を塗布する装置の製造・販売



第10世代ガラス基板搬送ロボット



ヘッドコーター



| 項目 | 平成19年9月期 | 平成20年9月期 | 対前年同期増減率 |
|------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 9,740 | 6,850 | 29.7% |
| 受注高 | 4,296 | 9,786 | 127.8% |
| 受注残高 | 8,689 | 21,937 | 152.5% |

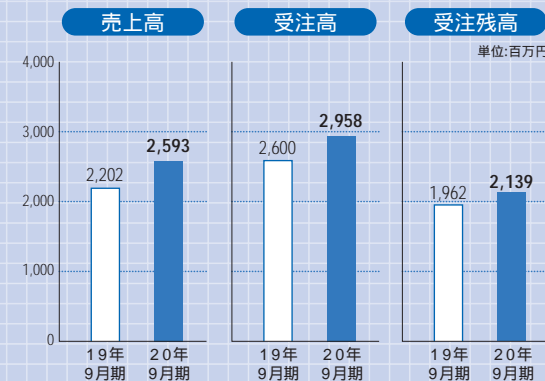
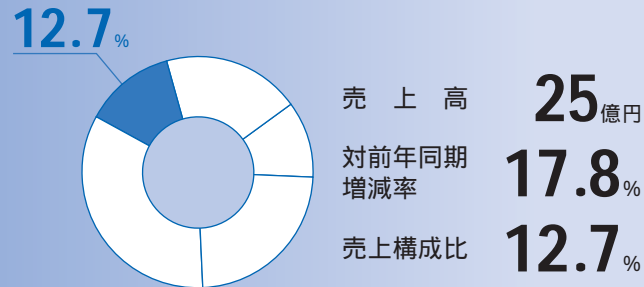
第58期 第2四半期累計実績

国内メーカーおよび台湾・中国のパネルメーカーにおいて設備投資は堅調に推移し、受注残は積み増していますが、売上は第3四半期以降に計上する見込みのため、当第2四半期累計期間の売上高は、68億50百万円(前年同期比29.7%減)となりました。売上高は前年同期と比較して減少しましたが、受注高、受注残とも前年を大きく上回る高い実績となっています。

FPDパネル市場は、テレビ用大型パネル需要の伸び率の鈍化やパネル価格の低下などにより、事業環境は厳しくなっておりますが、日本・韓国・台湾の主要メーカーの競合により、設備投資は今後も維持される見通しです。引き続き、国内メーカーの受注を確保するとともに、台湾、中国の当社連結子会社と連携を深め、台湾・中国のパネルメーカーへの販売活動を強化します。

半導体関連生産設備事業

ロードポート(ウェハ収容容器の開閉装置)、ウェハ搬送ロボット、EFEM(ウェハの処理を行うプロセス装置の前面にあり、ロードポートやロボットを組み込んだ装置)の製造・販売



| 項目 | 平成19年9月期 | 平成20年9月期 | 対前年同期増減率 |
|------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 2,202 | 2,593 | 17.8% |
| 受注高 | 2,600 | 2,958 | 13.8% |
| 受注残高 | 1,962 | 2,139 | 9.0% |

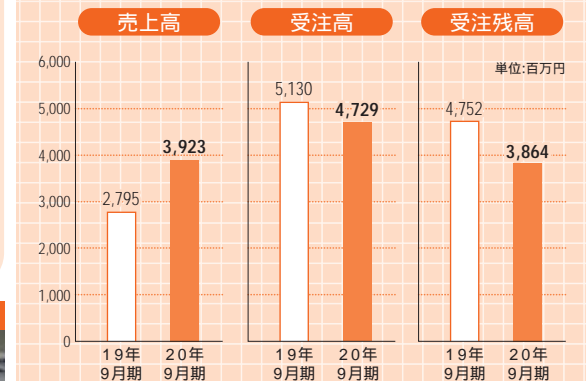
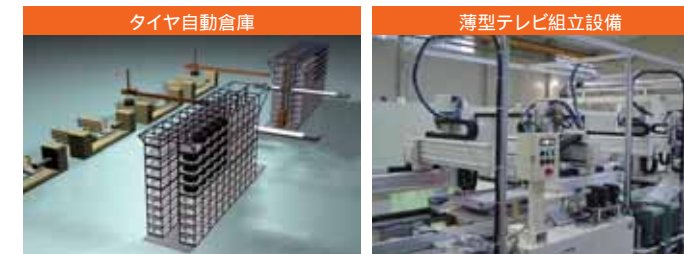
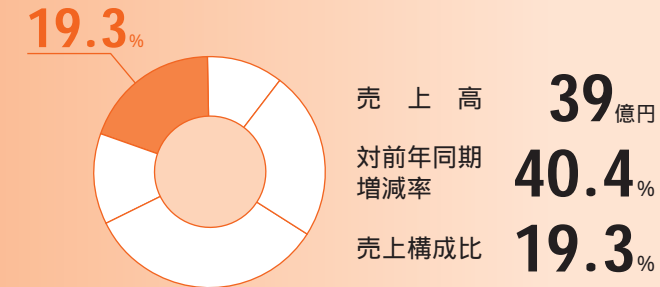
第58期 第2四半期累計実績

2007年下期以降、メモリー分野における需給バランスの悪化と価格下落の影響を受け、半導体メモリー市場は低迷しており、半導体メーカーの設備投資の手控えが進んでいます。しかし、当事業では、一部の大型製造受託案件の売上により、当第2四半期累計期間の売上高は、25億93百万円(前年同期比17.8%増)となりました。半導体市場低迷の中、受注

については、営業活動の強化により前年同期と比較して、増加しました。世界的な金融危機の深刻化や景気減速の影響から半導体市場の回復には依然、不透明感がありますが、今後、新製品の開発、販売活動を強化することにより、新規顧客の開拓および既存顧客内でのシェア拡大、サービス体制の強化を図り、受注規模の拡大を図ります。

物流機器および家電関連生産設備事業

家電関連分野では、薄型テレビ、冷蔵庫などの自動組立設備、タイヤ関連分野では、タイヤ搬送機、タイヤ仕分け機などを製造・販売



| 項目 | 平成19年9月期 | 平成20年9月期 | 対前年同期増減率 |
|------|----------|----------|----------|
| 売上高 | 2,795 | 3,923 | 40.4% |
| 受注高 | 5,130 | 4,729 | 7.8% |
| 受注残高 | 4,752 | 3,864 | 18.7% |

第58期 第2四半期累計実績

家電関連分野では、これまで好調に推移していた薄型テレビの設備投資が減速する一方で、タイヤ関連分野の売上が好調に推移した結果、当第2四半期累計期間の売上高は、39億23百万円(前年同期比40.4%増)となりました。欧州地域においては、薄型テレビの設備投資が減速しておりますが、今年9月に開設したチェコ共和国のプラハ支店を足掛かりに、

東欧地域への営業活動を強化します。また、タイヤ関連分野では、北米・欧州市場を中心に厳しい情勢が予測されますが、新製品の開発、営業活動の強化により、タイヤ事業の取引先を拡大し、収益の確保を図ります。

連結財務諸表(要約)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目 | 前第2四半期 連結会計期末 (19.9.30) | 当第2四半期 連結会計期末 (20.9.30) | 前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (20.3.31) |
|--------------------|-------------------------------|-------------------------------|---|
| 【資産の部】 | | | |
| 流動資産 | 36,766 | 44,080 | 39,066 |
| 現金及び預金 | 6,063 | 5,458 | 5,203 |
| 受取手形及び売掛金 1 | 18,941 | 19,076 | 23,508 |
| 商品 | 126 | 151 | 128 |
| 原材料 | 301 | 293 | 268 |
| 仕掛品 2 | 9,783 | 16,900 | 8,261 |
| 繰延税金資産 | 1,180 | 1,620 | 1,414 |
| その他 | 422 | 700 | 390 |
| 貸倒引当金 | 53 | 120 | 109 |
| 固定資産 | 19,062 | 21,176 | 20,350 |
| 有形固定資産 | 15,371 | 17,471 | 16,739 |
| 建物及び構築物(純額) | 3,852 | 5,592 | 4,523 |
| 土地 | 9,693 | 9,920 | 9,891 |
| その他 | 1,825 | 1,958 | 2,324 |
| 無形固定資産 | 209 | 276 | 209 |
| 投資その他の資産 | 3,481 | 3,427 | 3,400 |
| 資産合計 | 55,829 | 65,256 | 59,416 |

ポイント

1 受取手形及び売掛金

受取手形及び売掛金は、前期売掛金となっていた大口案件の売掛金回収が進んだため、前期末と比較して44億32百万円の減少となりました。

2 仕掛品

仕掛品は、前年同期と比較して売上高がほぼ同水準であったものの、第3四半期以降に売上予定の受注案件が多いため、前期末と比較して86億39百万円の増加となりました。

3 支払手形及び買掛金

支払手形及び買掛金は、大口案件の生産が集中し、仕入高・外注費が増加したため、35億45百万円の増加となりました。

4 有利子負債

有利子負債は、生産高の拡大に伴い資金需要が増しており、運転資金などの資金調達を行ったため、前期末と比較して36億39百万円の増加となりました。

(単位:百万円)

| 科目 | 前第2四半期 連結会計期末 (19.9.30) | 当第2四半期 連結会計期末 (20.9.30) | 前連結会計 年度末に係る要約 連結貸借対照表 (20.3.31) |
|-------------------------|-------------------------------|-------------------------------|---|
| 【負債の部】 | | | |
| 流動負債 | 22,067 | 31,149 | 27,248 |
| 支払手形及び買掛金 3 | 7,095 | 13,686 | 10,140 |
| 短期借入金 | 7,893 | 10,589 | 8,264 |
| 一年以内返済予定の長期借入金 4 | 1,956 | 1,707 | 2,298 |
| 一年以内償還予定の社債 | 600 | 150 | 600 |
| 賞与引当金 | 91 | 116 | 106 |
| その他 | 4,429 | 4,899 | 5,838 |
| 固定負債 | 13,657 | 13,859 | 11,581 |
| 社債 | 800 | 650 | 700 |
| 長期借入金 4 | 7,221 | 7,568 | 5,162 |
| 退職給付引当金 | 2,305 | 2,150 | 2,336 |
| その他 | 3,329 | 3,489 | 3,381 |
| 負債合計 | 35,725 | 45,009 | 38,829 |
| 【純資産の部】 | | | |
| 株主資本 | 15,046 | 15,796 | 16,065 |
| 資本金 | 2,633 | 2,633 | 2,633 |
| 資本剰余金 | 2,322 | 2,322 | 2,322 |
| 利益剰余金 | 10,109 | 11,024 | 11,293 |
| 自己株式 | 20 | 184 | 184 |
| 評価・換算差額等 | 4,761 | 4,176 | 4,225 |
| 少数株主持分 | 295 | 274 | 297 |
| 純資産合計 | 20,103 | 20,247 | 20,587 |
| 負債純資産合計 | 55,829 | 65,256 | 59,416 |

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 前第2四半期 連結累計期間 (自19.4.1 至19.9.30) | 当第2四半期 連結累計期間 (自20.4.1 至20.9.30) | 前期 (自19.4.1 至20.3.31) |
|-------------------|---|---|-----------------------------|
| 売上高 5 | 20,806 | 20,354 | 47,237 |
| 売上原価 | 16,241 | 16,702 | 38,006 |
| 売上総利益 | 4,565 | 3,651 | 9,231 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,901 | 3,178 | 6,053 |
| 営業利益 6 | 1,663 | 473 | 3,177 |
| 営業外収益 | 106 | 92 | 784 |
| 営業外費用 7 | 194 | 372 | 394 |
| 経常利益 | 1,576 | 193 | 3,568 |
| 特別利益 | 15 | 0 | 61 |
| 特別損失 8 | 323 | 61 | 397 |
| 税金等調整前四半期(当期)純利益 | 1,267 | 132 | 3,231 |
| 法人税等 | 613 | 133 | 1,405 |
| 少数株主利益 | 4 | 14 | 5 |
| 四半期(当期)純利益 | 648 | 12 | 1,832 |

ポイント

5 売上高

売上高は、自動車関連生産設備事業などの大口案件が業績に寄与しましたが、第2四半期に売上計上を予定していた大口案件の売上計上が第3四半期以降にずれ込んだことにより、前第2四半期累計期間と比較して、4億52百万円の減少となりました。

6 営業利益

営業利益は、売上高の減少、原材料価格の高騰などにより、売上原価が増加したこと、また、支払手数料、減価償却費などの増加により、販売費及び一般管理費が増加した結果、前第2四半期累計期間と比較して、11億90百万円の減少となりました。

9 営業活動による
キャッシュ・フロー

営業活動による資金は、税金等調整前当期純利益1億32百万円に対し、売上債権が43億36百万円減少し、たな卸資産が87億63百万円増加、仕入債務が37億74百万円増加した結果、15億31百万円の支出となりました。

10 投資活動による
キャッシュ・フロー

投資活動による資金は、有形固定資産の取得(中国上海の新工場における工作機械の購入など)などにより、14億64百万円の支出となりました。

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| 科目 | 前第2四半期 連結累計期間 (自19.4.1 至19.9.30) | 当第2四半期 連結累計期間 (自20.4.1 至20.9.30) | 前期 (自19.4.1 至20.3.31) |
|--------------------------------|---|---|-----------------------------|
| 営業活動による キャッシュ・フロー 9 | 767 | 1,531 | 3,032 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー 10 | 1,019 | 1,464 | 2,827 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー 11 | 762 | 3,204 | 188 |
| 現金及び現金同等物に 係る換算差額 | 57 | 23 | 34 |
| 現金及び現金同等物の 増加額又は減少額() | 567 | 185 | 17 |
| 現金及び現金同等物の 期首残高 | 5,220 | 5,203 | 5,220 |
| 現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 | 5,788 | 5,388 | 5,203 |

7 営業外費用

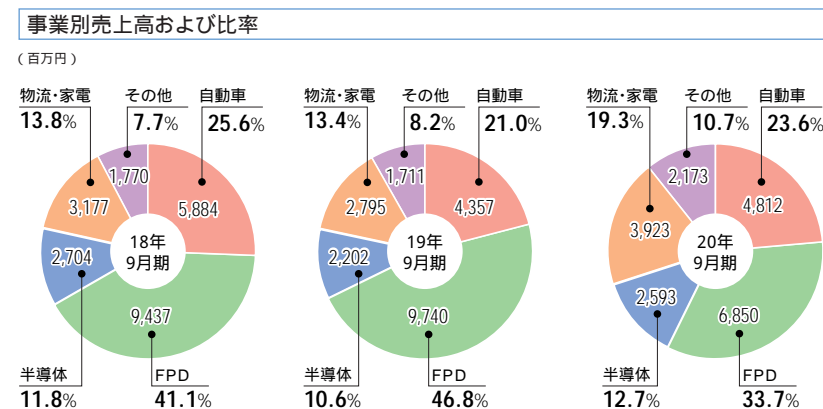
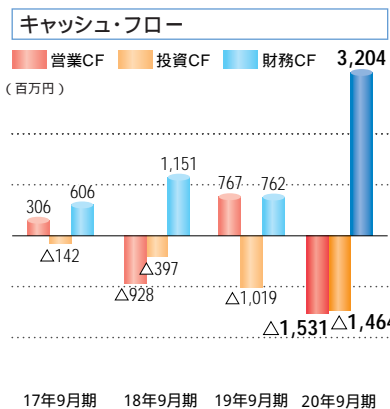
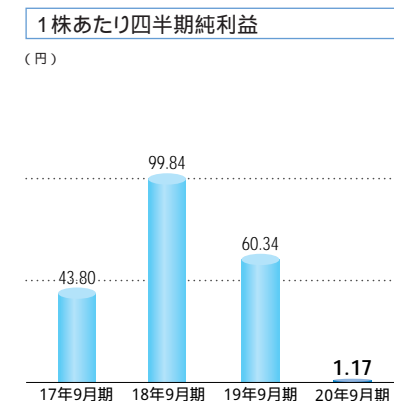
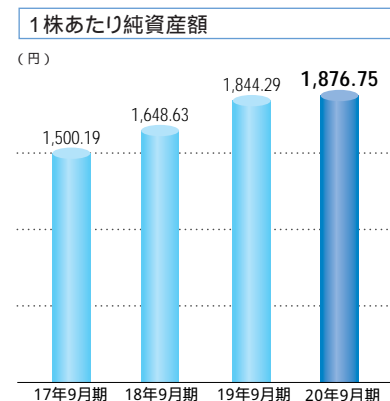
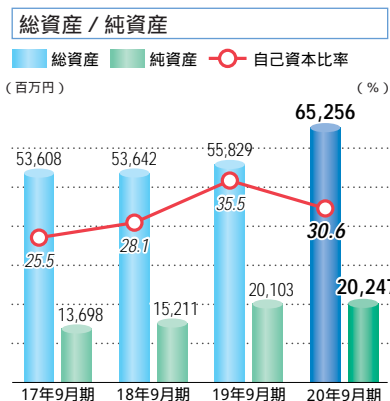
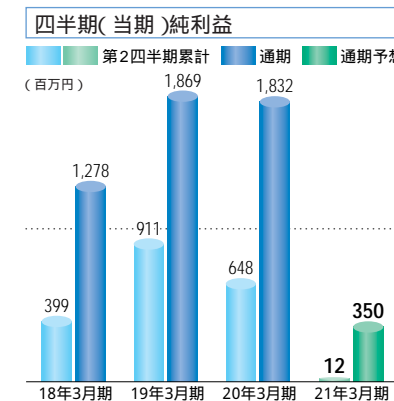
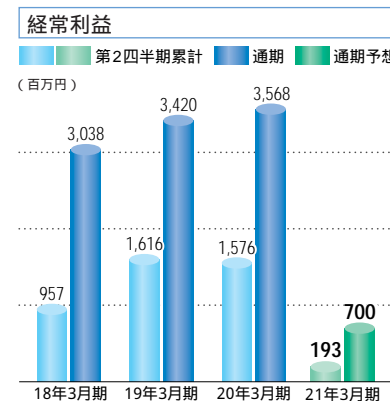
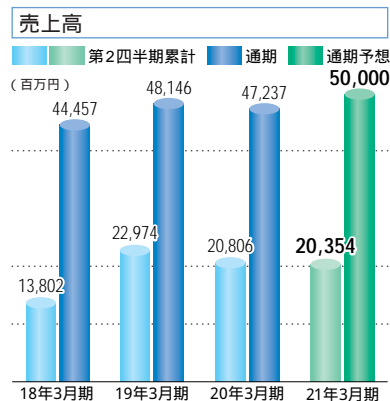
営業外費用は、為替差損の他、インバクトローンの支払利息が増加したこと、グローバルコミットメントライン料の支払いなどにより、前第2四半期と比較して、1億78百万円の増加となりました。

8 特別損失

特別損失は、株式市場の低迷により、有価証券評価損が44百万円増加したものの、前第2四半期に計上した貸倒引当金繰入額が当第2四半期において計上無しであったため、前第2四半期と比較して、2億62百万円減少しました。

11 財務活動による
キャッシュ・フロー

財務活動による資金は、長期借入金による収入28億3百万円などにより、32億4百万円の収入となりました。



会社概要

会社名 平田機工株式会社
 会社設立 1951年12月29日
 資本金 2,633百万円
 従業員数 1,970名
 業務内容 各種生産システム、産業用ロボットおよび物流関連機器等の製造ならびに販売
 本社所在地 東京都品川区戸越3丁目9番20号

役員 代表取締役会長 平田 耕也 執行役員 堤 春生
 代表取締役社長 米田 康三 執行役員 藤原 五男
 取締役副社長執行役員 平田 雄一郎 執行役員 矢野 英治
 取締役専務執行役員 橋 勝義 執行役員 田中 敏治
 取締役常務執行役員 小橋 正實 執行役員 小川 克真
 取締役執行役員 坂本 広徳 執行役員 藤本 勝
 執行役員 平賀 靖英
 常勤監査役 松永 盛文
 監査役 村田 邦夫
 監査役 山田 昭
 監査役 橋本 節雄

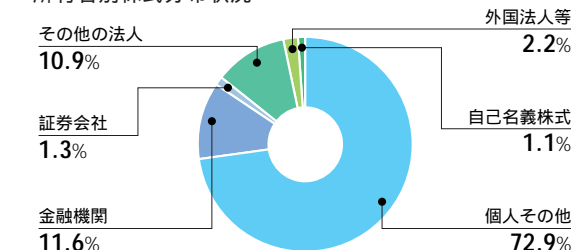
株式の状況

発行可能株式総数 37,000,000 株
 発行済株式総数 10,756,090 株
 株主数 3,053 名

大株主の状況

| 株主名 | 持株数(株) | 持株比率(%) |
|-----------|---------|---------|
| 平田 耕也 | 994,462 | 9.25 |
| 平田機工社員持株会 | 651,710 | 6.06 |
| 平田 紀生 | 575,162 | 5.35 |
| SMC株式会社 | 500,000 | 4.65 |
| 平田 宏之 | 464,972 | 4.32 |
| 平田 満 | 457,629 | 4.25 |
| 平田 雄一郎 | 401,500 | 3.73 |
| 株式会社肥後銀行 | 376,000 | 3.50 |
| 平田 滋夫 | 363,044 | 3.38 |
| 有限会社コンパス | 224,000 | 2.08 |

所有者別株式分布状況



所有株数別株式分布状況

